

昨年（2020年）1月に中国湖北省武漢市で原因不明の肺炎のアウトブレイクがあり、新型コロナウイルスであることが同定され、1年が過ぎました。今月号の編集後記は岡部が担当していますが、昨年の6月号の担当の時には、わが国の人口あたりの死亡者・感染者は欧米に比しごく少数に留まり、国内外で小児における患者発生数・重症者数は少ないものの、小児の心身への影響、乳幼児健診や予防接種の遅れ、Multisystem Inflammatory Syndrome in Children（MIS-C）などの課題があることなどに触れています。昨年の10月号の担当の時には、感染者は数的には多くなっているものの、いぜんとして国内外での小児における感染者数は少なく軽症が多く、国内では小児の死亡例もないこと、日本小児科学会のホームページ上で関連情報が掲載されていることなどの紹介をしています。

本号（2月号）編集時には、感染者数の急峻な増加に加えて入院医療機関の逼迫状況などから11都府県を対象とした緊急事態宣言が行なわれていますが、国内での小児の感染者数、重症化数はいぜん少なく留まり、MIS-C例・死亡例の報告はありません。少なくとも小児についてはその感染からは免れる状況が続いてほしいと願うばかりですが、変異ウイルスの動向をはじめ動向の注視はもちろん続ける必要があります。

さて、今月号の特集は「小児輸液 revisited—“いつもの輸液”を見直そう」です。輸液は日常茶飯事に行われる医療行為ですが、小児科医にとっては成人と異なるまさに小児科医らしさが発揮されるところです。私も研修医時代にその理論、実施方法、加えてルート確保手技などを、頭と手で必死に学びました。今回の特集では、小児輸液に関する基本・実践・初期維持輸液・病態別のポイント・ICUや術後管理・新生児輸液などについて、各分野のエキスパートに執筆して頂いています。“いつもの輸液”について、知識の整理・見直し・確認そして最新情報に触れることができる、若手にも中堅にも大ベテランにも、小児を診る先生方にはぜひ一読をお勧めしたい特集です。

症例として、早期診断により外科的治療が行われ術後経過が良好となった乳児例、髄膜炎との鑑別を要した頸椎椎間板石灰化症の学童例と、まれな症例の報告を頂き、日本医科大学小児科学教室からは、栄養・代謝・内分泌分野に関する外国論文の紹介を頂いています。

昨年6月号、10月号の編集後記と同じ締めくくりですが、新型コロナばかりが病気ではない、と雰囲気を変えてどうぞ本誌をお楽しみください。

（岡部 信彦）

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第62巻 第2号 2月号

2021年2月1日発行（毎月1回1日発行）

定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 47,630 円（本体 43,300 円＋税 10%）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。